
本学におけるFD活動の一環として実施しています「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。
今回のFDニュースでは、2022年度教育学部後期授業アンケート結果、授業アンケート活用状況及び2023年度前
期中間アンケート実施結果について報告いたします。

2022年度教育学部後期授業アンケートについて

1. 調査の概要と実施状況

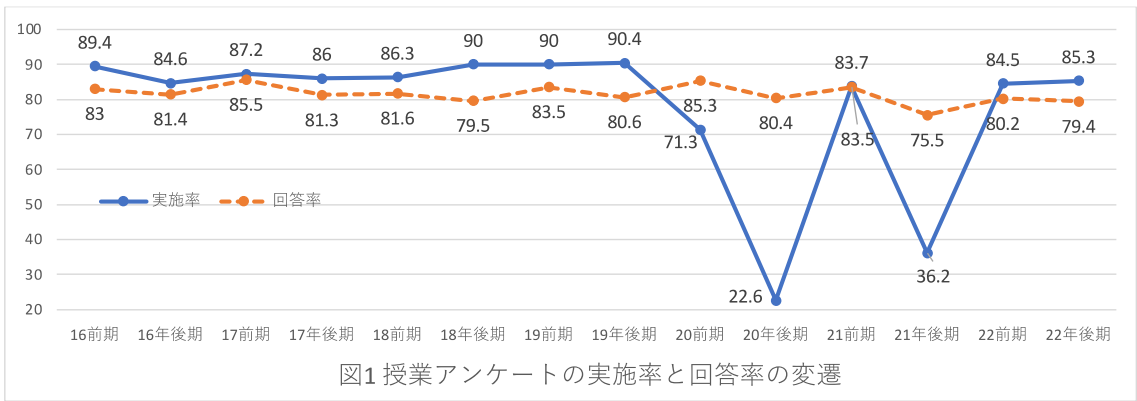
実施期間：2023年1月16日（月）～2月3日（金）

実施科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：362、回収科目数：309（実施率：85.3%）

実施科目履修登録者数：11,900、有効回答者数：9,455（回答率：79.45%）

2016年度前期からの実施率と回収率の変遷を図1に示します。22年度に入り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施率が低迷した20年度から、新型コロナ前の水準に回復した傾向が読み取れます。



2. 結果の概要

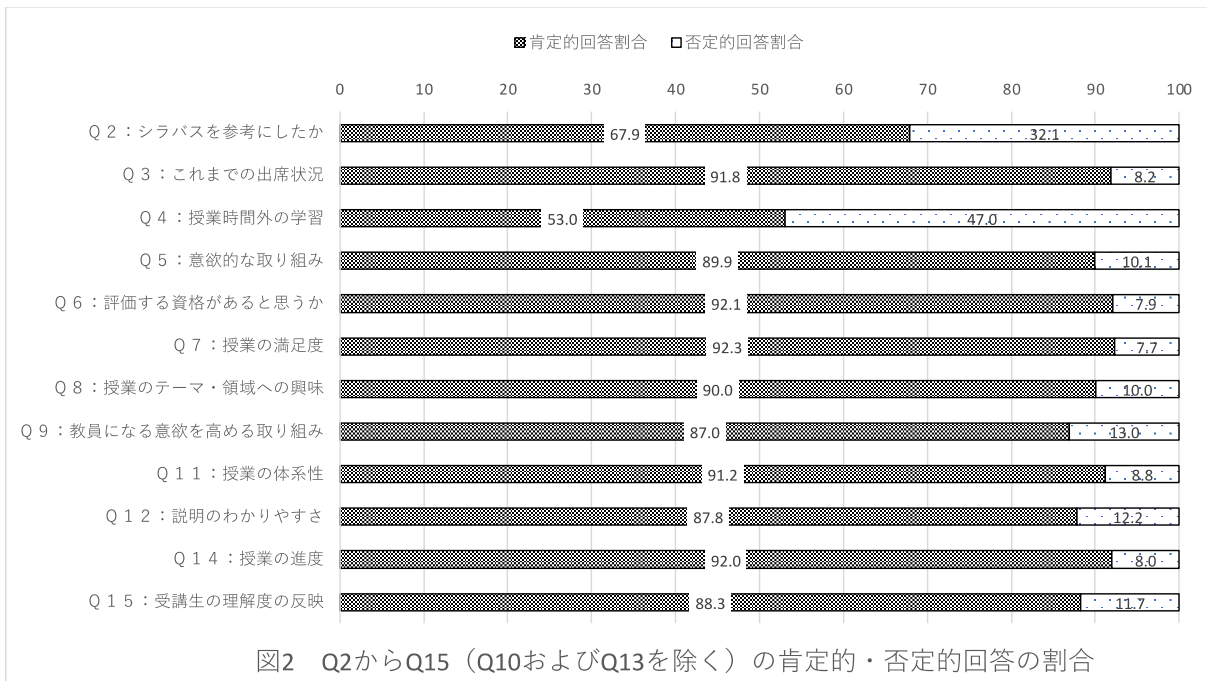
【Q1 受講動機】

受講動機として最も割合の高かった項目は順に「必修だから (70.1%)」「興味・関心 (24.8%)」「人の薦め (3.7%)」「空き時間 (3.5%)」「容易そう (1.2%)」でした。必修科目の履修は受講動機というよりもカリキュラム上の必然性から生じる履修計画に基づくものであると考えられます。

【Q2 から Q15 の結果 (Q10 と Q13 を除く)】

4件法で回答を求めた項目 (Q10 と Q13 以外の 12 項目) について、肯定的回答 (とても思う・やや思う等) と否定的回答 (あまり思わない・ほとんど思わない等) の 2 カテゴリーにスケールダウンした集計を図 2 に示します。

例年指摘されていることですが、今回の調査でも「Q2 シラバスを参考にしたか」と「Q4 授業時間外の学習」の肯定的回答の割合が相対的に低いという結果を得ました。「Q2 シラバスを参考にしたか」については、「Q1 受講動機」において「必修だから」という理由が約 7 割を占めており、「シラバスを参照してその内容から受講科目を決める」という選択肢が少ない状況を反映しているのではないかと推察されます。シラバスの内容に基づく授業選択の状況を明らかにするためには、今後、必修科目を除いて検討することが有効ではないかと考えられます (マークシートに受講者にとって必修科目かを記入させるなど)。



「Q4 授業時間外の学習」は、1 回分の予習・復習・レポート・課題に費やす時間を回答してもらっており、「1 時間以上」と「1 時間未満」にスケールダウンして集計しました。「授業時間外の学習時間」とそれ以外の各項目の肯定的・否定的回答の間で関連があるかをクロス集計にまとめ、Fishier の直接計算法を用いて検討したところ、「Q14 進度」以外の全ての項目と有意な関連性を示しました (図 3)。つまり、各項目の肯定的回答者は、否定的回答者に比べて、授業時間外の学習時間が長いことが示されました。ただし、関連性の強さを示す効果量の指標 (ϕ 係数) は、「Q2 シラバス ($\phi=0.18$)」、「Q5 意欲的 ($\phi=0.17$)」、「Q6 評価する資格 ($\phi=0.12$)」の 3 項目のみが 0.1 以上の値 (効果量小) を示しました。

これまでは、受講者の特徴について分析してきましたが、授業科目の特徴についてはどうでしょうか。例えば、「意欲的に授業に取り組む受講生が多い授業は、授業時間外の学習時間が長い受講生が多い」ということが言えるのでしょうか。若干 (かなり) 強引ですが、時間外の学習時間を従属変数、それ以外の 11 項目を独立変数とした重回帰分析 (ステップワイズ法) を試みてみました。その結果、以下の重回帰式が得られました。

$$Q4 \text{ 授業外学習時間} = 0.28 \times Q2 + 0.63 \times Q5 + 0.32 \times Q9 + 0.73 \times Q11 - 0.82 \times Q12 - 0.80 \times Q14 + 1.52$$

この重回帰式の調整済み決定係数は $R^2 = 0.231$ で 23% を説明しています。有意な独立変数として採択されたのは「Q2 シラバス」「Q5 意欲的」「Q9 教員になるための意欲を高める」「Q11 体系的性」「Q12 説明のわかりやすさ」「Q14 進度」です。この結果から示唆されることは次の 3 つではないでしょうか。一つ目は、学習のやり方がわかると受講生は学ぶということです。「シラバス」には参考図書、学習目標の到達点、評価方法が明記されています。「体系的」であれば復習がしやすくなるでしょう。二つ目は、学習の必要性です。「教員になるために意欲を高める」とは、自分自身の足りない部分を自覚して補い、また、得意な力を伸ばしていくことに繋がります。授業を通して「今の自分には何が足りていないのか。何を伸ばせばよき教員となれるのか」に向き合うきっかけをつくることで、受講者は学習に向かうのではないかと推察されます。三つ目は、わかりやすい授業の重要性です。「Q12 説明のわかりやすさ」「Q14 進度」の係数はマイナスになっています。つまり、「授業進度が最適で説明がわかりやすい授業は、授業内で理解が進むので、時間外学習が少なくなる」ことが示唆されます。これは授業者と授業者双方にとって、時間対効果の面でコスパ最高です。この点からすると、この数年、「学生の授業外学習時間が短くて」と嘆き節だった FD の観点も「大学教員の授業が分かりやすく進行している証拠」とドラマティック (?) に変わる可能性が示唆されます。

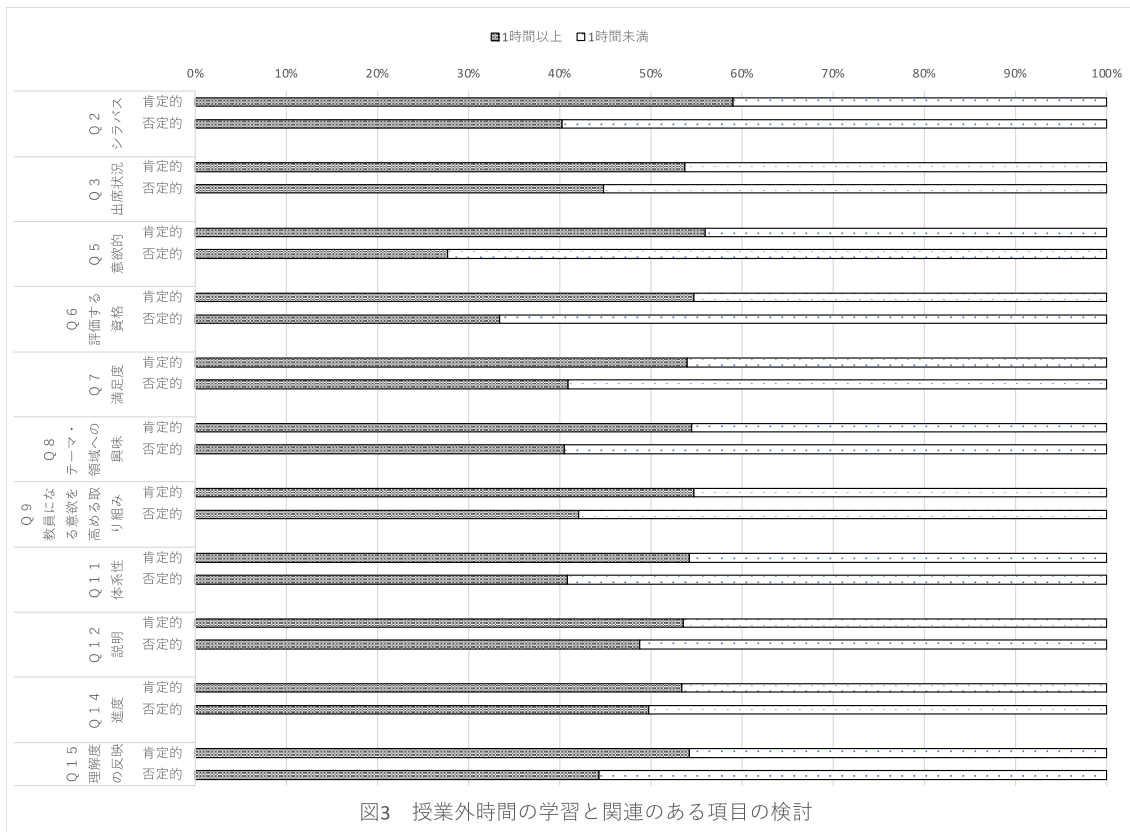


図3 授業外時間の学習と関連のある項目の検討

【Q10「授業は難しかったか」と Q13「テキストは難しかったか」について】

この2項目は他の項目とは異なり 5 件法 (5:とても難しかった・4:やや難しかった・3:ちょうどよかった・2:やや易しかった・1:とても易しかった) で回答を求めました。尺度の中心が最適な状態なため、平均値が高いほど肯定的とは解釈できません。図4に結果を示します。

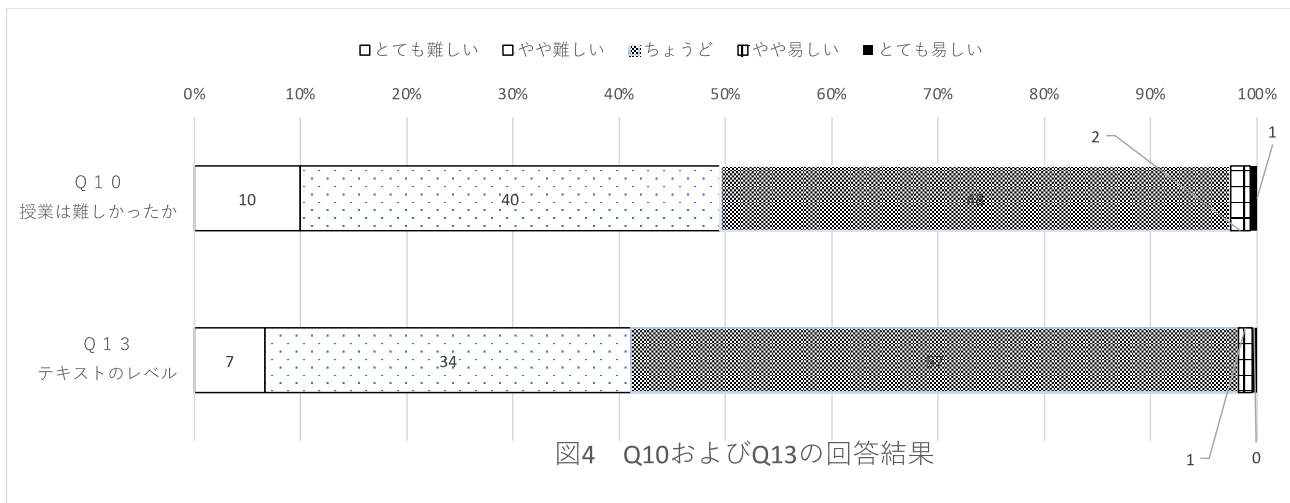


図4 Q10およびQ13の回答結果

Q10、Q13ともに「ちょうどよい」と「やや難しい」の2カテゴリで90%近い回答が得られました。また、「やや易しい」「とても易しい」の2カテゴリで2%と少ないことが示されました。「ちょうどよい」または「やや難しい」内容に取り組むことは、学習の継続性や定着性の観点から妥当であると考えられることから、多くの各授業担当者が受講者の内容に合わせた授業内容とテキストの選定をおこなっていることが推察されます。

今回のアンケート調査では、新型コロナ前の本学の標準的な授業実施状態に回復し、それが持続していることが読み取れました。また、数年来「授業外学習時間の少なさ」が問題視されていましたが、一概に学習時間が短いことが問題なのではなく、その背景には、各授業担当者が授業内 (15回の進行具合) でよりわかりやすい授業を展開しようと努力されているという側面も浮かび上がってきました。講義型、演習型、実技型、臨床型など本学の学生は様々な授業を履修し、学習しています。FD委員会では、今後も授業アンケートを実施し、多岐にわたる授業の現状を把握し、授業向上のためのエビデンスを蓄積していきたいと考えています。今後ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

授業アンケート活用状況調査及び 2023 年度前期教育学部中間アンケート実施結果調査について

「授業中間アンケート」は、授業担当者が学生の実情や要望を把握し、授業改善の一助としていただくことを狙いとしております。アンケートの実施は期末に実施する「授業アンケート」と同じ6名以上の受講登録がある全授業にお願いしております。

『授業アンケート活用状況調査及び 2023 年度前期教育学部中間アンケート実施結果調査』

回答期間：2023 年 6月19日から 2023 年 6月30日

回答枚数：64 枚 (参考：昨年 59 枚)

I. 授業アンケート（期末実施分）の活用状況について

問1 過去の授業アンケートの結果を2023年度前期の教育学部の授業に反映させている。

64 件の回答

はい	50 (78.1%)
いいえ	2 (3.1%)
過去に授業アンケートを実施していない	12 (18.8%)

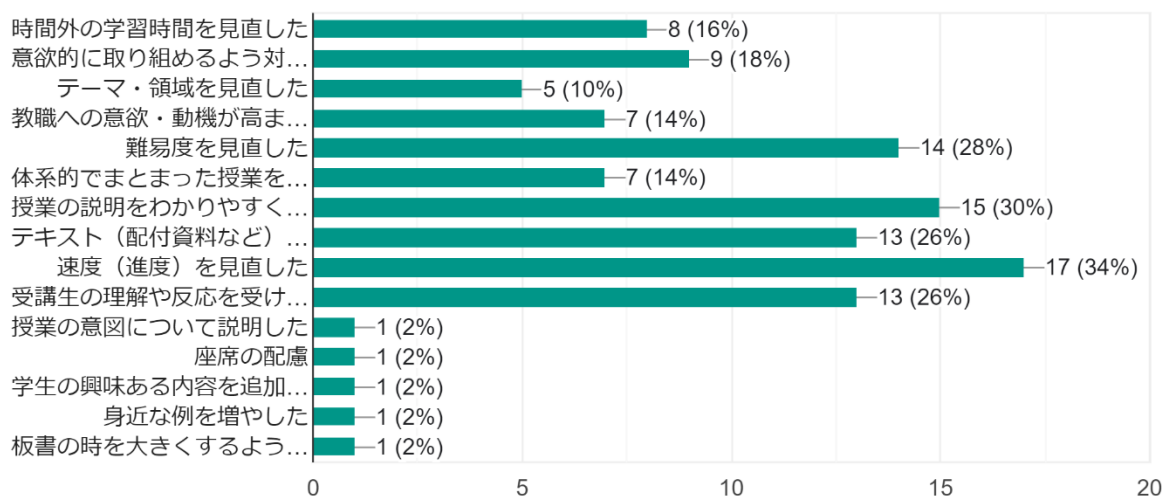
問2 授業に反映させていない理由についてお聞かせください。（自由記述）

4 件の回答

授業を担当していなかったから
 受講者が2名で、アンケート自体を実施していない。
 授業時間確保のため。
 去年は授業を担当しなかったです。今年は初めてです。

問3 授業に反映させた内容についてお聞かせください（複数回答可）

50 件の回答



〈コメント〉授業にアンケートの結果を反映させた内容として、「速度（進度）を見直した」との回答が多くあります。また、「授業の説明をわかりやすくした」というものが続きます。授業の内容を変更するというよりも、受講者の理解を確認しながら、改善を行っていることがうかがえます。

『わかりやすい授業』は学生の満足度や興味につながる項目です。各種の授業アンケートにおける回答が、受講生のやる気を引き出すための魅力ある授業づくりを意識した取り組みのきっかけとなれば幸いです。

II. 2023 年度前期教育学部中間アンケート実施結果調査

問1 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した。

64 件の回答

はい	48 (75%)
いいえ	16 (25%)

問2 授業中間アンケートを実施しなかった主な理由についてお聞かせください。

12 件の回答

授業回数が少なく、適正な回答が得られるとは考えにくかったため。授業終わりの振り返り記述で、学部生の意見を聴取するように心がけている。

多くの学生が教育実習で不在。この期間を利用して講義ではなく実技演習を行っており、時間が不足しているため。

2名なので、いろいろ話しながらやっているため

授業中に時間が取れなかった

授業時間確保のため。

予定日に休講が発生した為、本年度は実施できなかった。

毎時間、5項目の授業アンケート・ミニレポートを実施しているから

時間が取れないので 毎回コメントシートを活用している

知らなかった

1回で十分と考えるため

授業を行う方が大切です

問3 使用した様式についてお聞かせください。

50 件の回答

FD委員会の様式	46 (92%)
独自の様式	4 (8%)

問4 中間アンケートを実施した結果についてお聞かせください。

48 件の回答

意義があった	26 (54.2%)
どちらかというと言義があった	18 (37.5%)
どちらかというと言義がなかった	3 (6.3%)
意義がなかった	1 (2.1%)

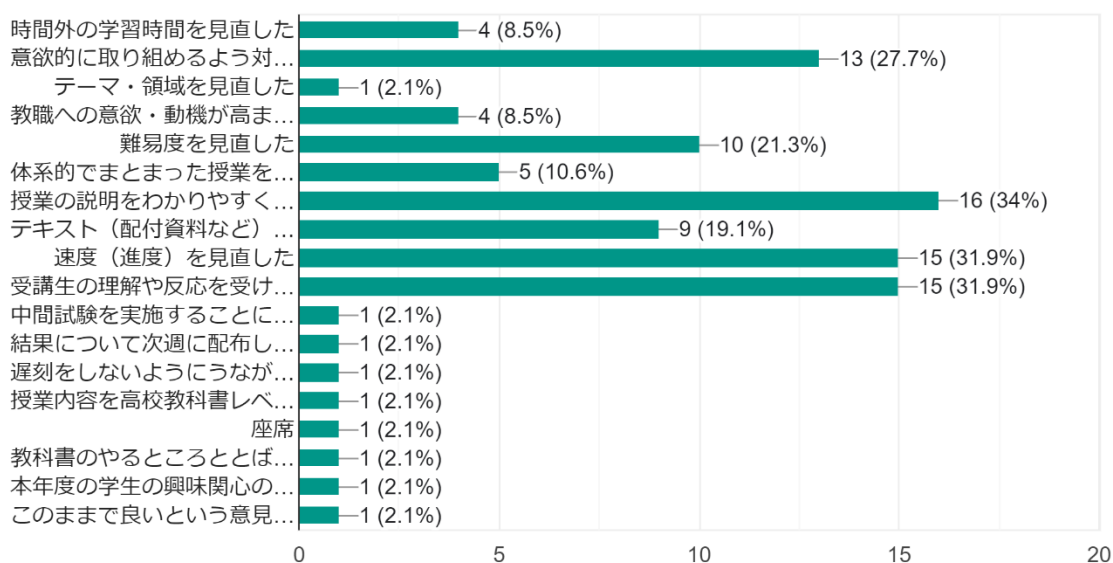
問5 授業中間アンケートの結果について、受講生と話し合ったり言及したりされましたか。

48 件の回答

はい	34 (70.8%)
いいえ	14 (29.2%)

問6 授業へ中間アンケート結果を反映された内容についてお聞かせください。(複数回答可)

47件の回答



問7 F D委員会様式の「授業中間アンケート」の設問についてお聞かせください。

52件の回答

現状のままでよい	45 (86.5%)
改善の余地あり(問8へ)	7 (13.5%)

問8 問7について具体的にお聞かせください。

6件の回答

学生からの意見集約を行いやすくするために、オンラインフォームのものもあると大変有り難いです。授業中に時間確保が難しいため、Web入力など授業時間外でできる方法もあるとありがたいです。大学の授業がこれで良いのかと思う！学生の授業外での勉強時間数なども問いにして欲しい。自由記述は委員会でき取りまとめるのが本来である

〈コメント〉中間アンケートは、授業期間中に授業の改善点を把握するために行っています。アンケート項目は例としてお示ししているもので、教員が自由に作り替えたり、オンラインで実施したりするなど工夫して実施していただいて問題ございません。PDFとWORDファイルが「事務局HP→様式集→6教務課」にありますので、ご利用ください。

F D委員会の実施する各アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。F D活動は「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称」と定義され、平成11年度から制度化されています(文部科学省HP)。また、「教員の教育・研究指導能力の向上には、F Dの実施や成績評価基準等の明示等とともに、自らの教育研究活動についての評価を行うことによって、その実効性を担保し、更なる改善のための材料とすることが重要である」(平成17年9月5日中教審)という文言が示す通り、F D活動は教員の義務と言っても過言ではない取り組みとなっております。

F Dは、日々の教育活動をより効率的で円滑に行なっていくための知恵の共有を目指しています。F D研修会やアンケート等を通して、皆様と知識を共有し、教育活動に少しでもお役に立てればと考えております。今後とも皆様の積極的なF D活動へのご参加と、ご協力をお願い申し上げます。

F D委員会では今年度もアンケート調査を実施するとともに、授業改善のための研修会を企画しています。今後ともご協力くださいますよう、お願いいたします。

内容について、問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

F D委員会委員：中(委員長)、寺田、香川、牛山、亀田
(事務担当：糟谷、村田、西松)